



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



平成22年7月27日

上場会社名 エムスリー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2413 URL <http://corporate.m3.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 谷村 格
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 辻 高宏 (TEL) 03-5408-0800
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	3,358	52.7	1,288	21.1	1,241	15.2	677	—
22年3月期第1四半期	2,199	11.8	1,064	15.9	1,077	13.1	△249	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	2,589.02	2,560.12
22年3月期第1四半期	△955.27	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第1四半期	13,638	10,860	77.1	40,116.85
22年3月期	15,266	11,258	71.4	41,632.94

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 10,509百万円 22年3月期 10,896百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				年間配当金
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	期末
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	3,600.00	3,600.00
23年3月期	—				
23年3月期(予想)		0.00	—	—	—

- (注) 1 当四半期における配当予想の修正有無：無
 2 現時点において、平成23年3月期の配当予想額は未定です。今後の資金需要動向とキャッシュ・フローの状況とを勘案し、株主配当の水準を決定する予定です。

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,800	35.2	2,400	16.7	2,400	17.8	1,300	—	4,964.62
通期	14,500	22.8	5,800	20.7	5,800	19.6	3,300	70.2	12,602.49

- (注) 1 当四半期における業績予想の修正有無：無
 2 1株当たり予想当期純利益については、平成23年3月期第1四半期期中平均株式数261,853株に基づいて算出しています。

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 4 「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年3月期1Q	261,984株	22年3月期	261,732株
23年3月期1Q	一株	22年3月期	一株
23年3月期1Q	261,853株	22年3月期1Q	261,666株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	1
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	1
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(7) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更	11
(8) 表示方法の変更	11
(9) 注記事項	12

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当期においても医療従事者専門サイト「m3.com」の基盤強化を進め、医師会員は、当第1四半期連結会計期間において3千人増加の19.1万人に達しました。

既存サービスについては、顧客への各サービスの浸透も進み、順調に推移しました。製薬会社向けのマーケティング支援サービスは、国内主要製薬会社のほぼ全社が既にご利用されている基本的な「提携企業」サービス、「m3.com」のプラットフォーム上で会員医師が主体的、継続的に高頻度で情報を受け取れる「MR君」サービス、会員医師に対してメールで直接アプローチする「m3MT」サービスと、意図や用途により選べるサービスメニューを提供しています。

また、会員医療従事者を対象とした調査サービス、会員へ医療情報以外のライフサポート情報を提供する「QOL君」などの一般企業向けマーケティング支援サービス、一般の方々からの健康や疾病に関する質問に「m3.com」登録医師が回答する「AskDoctors」(<http://www.AskDoctors.jp/>)、女性のための健康管理・美容促進サポートサイト「AskMoon女性の医学」(<http://askmn.jp/>)、最新の心理学をベースとした心の健康管理サイト「AskMind★ココロ日記」、診療所の経営をサポートする「m3.com 開業・経営」等の新規サービスの拡充も進め、ITを活用した大規模臨床研究支援サービスを提供するメビックス株式会社(以下「メビックス」という)、医師、薬剤師向けの求人求職支援サービスを提供するエムスリーキャリア株式会社(以下「エムスリーキャリア」という)、クリニックの診療予約サービスを提供するアイチケット株式会社(以下「アイチケット」という)等、グループ会社も拡大しています。

米国においては、「MR君」の米国版である「M3 Messages」サービスの展開が順調に進み、これまで「がん」「リウマチ」「神経科」「循環器」「PCP」等の領域で、11社26薬剤の契約を獲得し、うち11薬剤で既にサービス提供中です。

当第1四半期連結累計期間の業績は、以下のとおりです。

(当期の業績)

(単位：百万円)

	平成22年3月期 第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	平成23年3月期 第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	比較増減		(参考) 前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
売上高	2,199	3,358	+1,159	+52.7%	11,811
営業利益	1,064	1,288	+224	+21.1%	4,803
経常利益	1,077	1,241	+163	+15.2%	4,851
四半期(当期)純利益 (△損失)	△249	677	+927	—	1,938

(セグメントの業績)

(単位：百万円)

		(参考) 平成22年3月期 第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	平成23年3月期 第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	比較増減	
医療 ポータル	セグメント売上高	1,951	2,537	+586	+30.0%
	セグメント利益	1,224	1,435	+211	+17.3%
エビデンス ソリューション	セグメント売上高	—	477	+477	—
	セグメント利益	—	△55	△55	—
海外	セグメント売上高	205	351	+146	+71.1%
	セグメント利益	△38	10	+49	—
その他	セグメント売上高	55	65	+9	+16.6%
	セグメント利益	2	△1	△3	—
消去又は全社	セグメント売上高	(13)	(73)	—	—
	セグメント利益	(111)	(148)	—	—
合計	売上高	2,199	3,358	+1,159	+52.7
	経常利益	1,077	1,241	+163	+15.2%

(注) 当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。なお、上記記載の前第1四半期連結累計期間の数値については参考情報です。

①医療ポータル

医療関連会社マーケティング支援分野の売上高は、1,555百万円（前年同期比16.5%増）となりました。国内において、eディテール（会員向けに配信したメッセージ）量が伸びたこと等により、「MR君」サービスの売上高が前年同期比19%増となった等、全体としては前年同期比16.5%の増収となりました。

調査分野の売上高は256百万円（前年同期比17.8%増）となりました。提携企業との連携強化等の要因により好調に推移しました。

その他分野の売上高は、725百万円（前年同期比82.0%増）となりました。エムスリーキャリア設立が増収に貢献した他、「AskDoctors」をはじめとしたコンシューマ事業が好調に推移しました。

これらの結果、医療ポータルセグメントの売上高は、2,537百万円（前年同期比30.0%増）となりました。

売上原価と販売費及び一般管理費の総額は、コンテンツ売上増加に伴う業務委託費の増加や、エムスリーキャリア設立等のエムスリーグループ業容拡大に伴う人件費や会員向けポイント関連費用の増加等の要因により、1,069百万円（前年同期比46.7%増）となりました。

以上の結果、医療ポータルのセグメント利益は1,435百万円（前年同期比17.3%増）となりました。

②エビデンスソリューション

エビデンスソリューションセグメントにおいては、既存の大規模臨床試験の契約に伴う収益が中心となり、売上高477百万円、セグメント損失55百万円となりました。

③海外

北米の売上高は、「M3 Messages」サービスが着実に拡大したことに加え、調査事業が好調に推移したことにより、317百万円（前年同期比69.5%増）となりました。韓国においても順調に事業が推移した結果、海外セグメントの売上高は351百万円（前年同期比71.1%増）となりました。

また、「M3 Messages」サービス拡大のための費用の増加を吸収し、海外セグメントの利益は10百万円となり、黒字化を達成しました。

④その他

その他セグメントの売上高は、アイチケットのサービス拡大により65百万円（前年同期比16.6%増）となりました。

また、アイチケットのサービス拡大に向け人員の拡充を行った結果、その他セグメントの損失は1百万円となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間における当社グループの売上高は3,358百万円（前年同期比52.7%増）、営業利益は1,288百万円（前年同期比21.1%増）、経常利益は1,241百万円（前年同期比15.2%増）、四半期純利益は677百万円（前年同期比927百万円改善）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

資産合計は、前連結会計年度末比1,627百万円減の13,638万円となりました。法人税等の支払等により現金及び預金が1,510百万円減少したことを主な要因に、流動資産は前連結会計年度末比1,553百万円減の10,203百万円となりました。また、投資有価証券の時価評価の影響等により投資有価証券が126百万円減少したことを主な要因に、固定資産は73百万円減の3,435百万円となりました。

負債合計は、前連結会計年度末比1,230百万円減の2,778百万円となりました。法人税の支払等により未払法人税等が886百万円減少したことを主な要因に、流動負債は1,218百万円減の2,575百万円となりました。固定負債は、資産除去債務を計上した一方で、投資有価証券の時価評価の影響等により繰延税金負債が49百万円減少したことを主な要因に、前連結会計年度末比11百万円減の202百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末比397百万円減の10,860百万円となりました。四半期純利益677百万円を計上した一方、剰余金配当942百万円を行ったことにより利益剰余金が318百万円減少したことが主な要因です。

（キャッシュ・フローの状況）

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末残高より1,483百万円減少し、7,018百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、247百万円の支出（前年同期比677百万円の支出増）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,239百万円であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額1,342百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは、327百万円の支出（前年同期比1,373百万円の支出減）となりました。主な要因は、敷金・保証金の差入による支出238百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、884百万円の支出（前年同期比83百万円の支出増）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの当期業績については、増収増益となることを見込んでいます。

①医療ポータルセグメント

医療関連会社マーケティング支援分野については、引き続き「MR君」サービスの利用顧客数及び利用量の増加を中心とした国内事業の継続的な拡大を見込んでいます。

調査分野においては、製薬会社を中心とした旺盛な需要を背景に、調査サービスの継続的な成長を見込んでいます。

その他分野においては、新たに設立したエムスリーキャリア株式会社の拡大や「AskDoctors」サービスの会員増加等、各サービスの拡大を見込んでいます。

費用については、更なる成長に向けた積極的な人員増等を計画していますが、既存サービスに直接関連する費用に関しては構造的な変化は見込んでいません。

以上の結果、医療ポータルセグメントは、増収増益を見込んでいます。

②エビデンスソリューションセグメント

エビデンスソリューションセグメントについては、大型プロジェクト等の開始と構造改革の進展によるコスト削減を見込んでいます。なお、メビックス株式会社の業績については、平成22年2月から平成23年1月の業績を、当社グループの業績見通しの対象に含んでおります。

以上の結果、エビデンスソリューションセグメントは増収増益を見込んでいます。

③海外セグメント

海外セグメントについては、米国を中心とした成長を見込んでいます。費用については、米国「M3 Messages」サービス拡大のための費用の発生を引き続き見込んでいます。

以上の結果、海外セグメントは増収増益を見込んでいます。

④その他セグメント

その他セグメントについては、アイチケット株式会社の拡大を見込んでいます。費用については、同社サービス拡大のための若干の人員増を見込んでいますが、構造的な変化は見込んでいません。

以上の結果から、その他セグメントは増収増益を見込んでいます。

これらを踏まえ、平成23年3月期の業績見通しを、以下のとおりとしております。

（単位 百万円）

	平成22年3月期 実績	平成23年3月期 業績予想	差異
売上高	11,811	14,500	+2,689
営業利益	4,803	5,800	+997
経常利益	4,851	5,800	+949
当期純利益	1,938	3,300	+1,362

※ 上記業績予想につきましては、本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて算定しております。今後の経済状況等の変化により、実際の業績は異なる結果となる可能性があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

詳細は、「3. 四半期連結財務諸表 (7) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」をご参照ください。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,269,257	8,780,249
売掛金	2,113,866	2,207,849
商品	4,226	4,209
仕掛品	123,666	114,629
その他	704,952	663,341
貸倒引当金	△12,597	△13,013
流動資産合計	10,203,372	11,757,265
固定資産		
有形固定資産	※1 168,175	※1 134,096
無形固定資産		
のれん	1,726,217	1,784,879
その他	270,468	262,939
無形固定資産合計	1,996,686	2,047,818
投資その他の資産		
投資有価証券	754,644	881,634
その他	515,838	445,749
投資その他の資産合計	1,270,482	1,327,384
固定資産合計	3,435,344	3,509,300
資産合計	13,638,717	15,266,565
負債の部		
流動負債		
買掛金	539,402	653,161
未払法人税等	484,796	1,371,452
ポイント引当金	385,365	370,670
その他の引当金	62,733	84,044
その他	1,103,645	1,315,059
流動負債合計	2,575,943	3,794,387
固定負債		
退職給付引当金	8,172	9,415
繰延税金負債	82,086	132,081
その他	111,836	72,520
固定負債合計	202,094	214,017
負債合計	2,778,038	4,008,405

(単位:千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,197,147	1,190,810
資本剰余金	1,425,542	1,419,205
利益剰余金	7,802,690	8,121,666
株主資本合計	10,425,380	10,731,682
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	165,882	233,229
為替換算調整勘定	△81,291	△68,237
評価・換算差額等合計	84,591	164,991
新株予約権	41,855	39,029
少数株主持分	308,851	322,456
純資産合計	10,860,679	11,258,160
負債純資産合計	13,638,717	15,266,565

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	2,199,398	3,358,738
売上原価	477,799	942,990
売上総利益	1,721,598	2,415,748
販売費及び一般管理費	*1 657,346	*1 1,127,063
営業利益	1,064,252	1,288,685
営業外収益		
受取利息	6,088	5,158
受取配当金	—	1,730
持分法による投資利益	6,460	—
その他	6,125	1,127
営業外収益合計	18,674	8,016
営業外費用		
為替差損	4,789	47,225
その他	479	7,978
営業外費用合計	5,269	55,204
経常利益	1,077,657	1,241,497
特別利益		
新株予約権戻入益	—	4,444
特別利益合計	—	4,444
特別損失		
のれん一時償却額	*2 864,313	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	6,436
特別損失合計	864,313	6,436
税金等調整前四半期純利益	213,344	1,239,504
法人税、住民税及び事業税	404,267	467,570
法人税等調整額	53,908	71,209
法人税等合計	458,176	538,779
少数株主損益調整前四半期純利益	—	700,724
少数株主利益	5,130	22,782
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△249,962	677,941

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	213,344	1,239,504
減価償却費	22,039	40,579
のれん償却額	12,725	52,025
のれん一時償却額	864,313	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△3,395	—
新株予約権戻入益	—	△4,444
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	6,436
貸倒引当金の増減額(△は減少)	410	—
ポイント引当金の増減額(△は減少)	2,592	14,969
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,597	△43
その他の引当金の増減額(△は減少)	△10,651	△19,844
受取利息及び受取配当金	△8,217	△6,888
為替差損益(△は益)	4,789	47,225
持分法による投資損益(△は益)	△6,460	5,517
売上債権の増減額(△は増加)	180,584	73,035
たな卸資産の増減額(△は増加)	△5,336	△11,083
その他の流動資産の増減額(△は増加)	21,880	△12,692
仕入債務の増減額(△は減少)	8,158	△107,253
未払費用の増減額(△は減少)	—	△71,921
前受金の増減額(△は減少)	—	△163,235
その他の流動負債の増減額(△は減少)	52,533	8,318
その他	△4,840	△6,000
小計	1,346,070	1,084,206
利息及び配当金の受取額	10,634	10,580
法人税等の支払額	△926,625	△1,342,454
営業活動によるキャッシュ・フロー	430,080	△247,667
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,453	△54,416
定期預金の払戻による収入	4,662	50,000
有形固定資産の取得による支出	△1,755	△38,527
無形固定資産の取得による支出	△17,003	△37,958
敷金及び保証金の差入による支出	△508	△238,135
敷金及び保証金の回収による収入	3,169	1,817
投資有価証券の売却による収入	7,368	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,642,564	—
貸付けによる支出	△52,228	△10,633
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,701,314	△327,852
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	—	12,674
配当金の支払額	△800,640	△886,119
少数株主への配当金の支払額	—	△10,773
財務活動によるキャッシュ・フロー	△800,640	△884,219
現金及び現金同等物に係る換算差額	△796	△23,485
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,072,670	△1,483,225
現金及び現金同等物の期首残高	8,001,977	8,502,188
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 5,929,306	※1 7,018,962

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

当社グループは、従来、インターネットを利用した医療関連事業に特化しており1つのセグメントしかありませんでしたが、当第1四半期連結会計期間より大規模臨床研究支援事業を営むメビックス株式会社を新たに連結の範囲に含めたことに伴い、従来のインターネットを利用した医療関連事業を「医療ポータル」セグメントとし、メビックス株式会社の連結化に伴い新たに加わる大規模臨床研究支援事業等を「エビデンスソリューション」セグメントとしました。

なお、当第1四半期連結累計期間においては、メビックス株式会社のみなし取得日は4月30日であること、また、四半期連結財務諸表作成に当たってメビックス株式会社については4月30日現在の財務諸表を使用していることから、エビデンスソリューションセグメントの損益は含まれておらず、医療ポータルセグメントの損益しか含まれていないため、記載を省略しています。

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	その他の地域 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,994,061	187,596	17,740	2,199,398	—	2,199,398
(2) セグメント間の内部売上高 または振替高	12,613	—	—	12,613	(12,613)	—
計	2,006,674	187,596	17,740	2,212,012	(12,613)	2,199,398
営業利益(△損失)	1,211,705	△37,207	△4,476	1,170,021	(105,769)	1,064,252

(注) 1 国または地域は、地理的近接度により区分しています。

2 日本以外の区分に属する主な国または地域は次のとおりです。

北米：米国

その他の地域：韓国

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	187,596	17,740	205,337
II 連結売上高(千円)			2,199,398
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	8.5	0.8	9.3

(注) 1 国または地域は、地理的近接度により区分しています。

2 各区分に属する主な国または地域は次のとおりです。

北米：米国

その他の地域：韓国

3 海外売上高は、連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高です。

〔セグメント情報〕

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分に関する意思決定を行い、かつ、業績評価をするために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

「医療ポータル」セグメントは、医療従事者専門サイトm3.comの会員基盤を利用した医療関連会社向けマーケティング支援や調査等の各種サービスを提供しています。「エビデンスソリューション」セグメントは、大規模臨床研究支援事業等を行っています。「海外」セグメントは、米国及び韓国等での医療従事者専門サイトを活用した医療関連会社向けマーケティング支援や調査等の各種サービスを提供しています。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	医療ポータル	エビデンス ソリューション	海外	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,465,118	477,310	351,417	3,293,847	64,891	3,358,738
セグメント間の内部売上高 または振替高	72,806	—	—	72,806	218	73,025
計	2,537,925	477,310	351,417	3,366,654	65,109	3,431,764
セグメント利益（△損失）	1,435,585	△55,573	10,969	1,390,981	△1,294	1,389,687

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機関向け各種情報提供サービス事業等を含んでいます。

3 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（単位：千円）
報告セグメント計	1,390,981
「その他」の区分の利益	△1,294
セグメント間取引消去	△11,164
全社費用（注）	△137,025
四半期連結損益計算書の経常利益	1,241,497

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門にかかる費用です。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
1 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 「資産除去債務に関する会計基準」の適用 当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ1,643千円減少し、税金等調整前四半期純利益は8,080千円減少しています。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は、42,889千円です。</p> <p>(2) 「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用 当第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分)及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年3月10日)を適用し、連結決算上必要な調整を行っております。 なお、これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微です。</p>

(8) 表示方法の変更

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
(四半期連結損益計算書)	<p>1 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>2 前第1四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取配当金」は、営業外収益の総額の20/100を超えたため、区分掲記しています。 なお、前第1四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含めておりました「受取配当金」は、2,128千円です。</p>
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書)	<p>1 前第1四半期連結累計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他流動負債の増減額(△は減少)」に含めて表示しておりました「未払費用の増減額(△は減少)」は、当第1四半期連結累計期間において金額的重要性が増したため、区分掲記しています。 なお、前第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローの「その他流動負債の増減額(△は減少)」に含めておりました「未払費用の増減額(△は減少)」は、△33,257千円です。</p> <p>2 第1四半期連結累計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他流動負債の増減額(△は減少)」に含めて表示しておりました「前受金の増減額(△は減少)」は、当第1四半期連結累計期間において金額的重要性が増したため、区分掲記しています。 なお、前第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローの「その他流動負債の増減額(△は減少)」に含めておりました「前受金の増減額(△は減少)」は、47,165千円です。</p>

(9) 注記事項

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額は、219,075千円です。	※1 有形固定資産の減価償却累計額は、221,763千円です。

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。 報酬・給与 205,239千円 販売促進費 166,502千円 賞与引当金繰入額 15,526千円 ※2 のれん一時償却額については、連結子会社メビックス株式会社が平成22年4月30日に実施した過年度決算の訂正を発端として買収価格に与えたであろう影響を精査した結果、買収時に使用したメビックスの財務情報が不適切であったために買収価格算定の前提が覆り、取得対価のうち過大であった部分を損失処理したものです。	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。 報酬・給与 322,608千円 販売促進費 226,795千円 賞与引当金繰入額 20,651千円 ポイント引当金繰入額 15,129千円 —

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年6月30日現在) 現金及び預金勘定 6,178,312千円 預入期間3ヶ月超の定期預金 △249,005千円 現金及び現金同等物 5,929,306千円	※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) 現金及び預金勘定 7,269,257千円 預入期間3ヶ月超の定期預金 △250,294千円 現金及び現金同等物 7,018,962千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1 発行済株式の種類及び総数

普通株式 261,984株

2 新株予約権等に関する事項

ストック・オプションとしての新株予約権

新株予約権の四半期連結会計期間末残高 親会社 41,855千円

(注) スtock・オプションとしての新株予約権の一部は、権利行使期間の初日が到来していません。

3 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年4月27日 取締役会	普通株式	942,235	3,600	平成22年3月31日	平成22年6月7日	利益剰余金

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 40,116.85円	1株当たり純資産額 41,632.94円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	10,860,679	11,258,160
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	350,707	361,486
(うち新株予約権)	(41,855)	(39,029)
(うち少数株主持分)	(308,851)	(322,456)
普通株式に係る四半期末(期末)の純資産額(千円)	10,509,971	10,896,673
1株当たり純資産額の算定に用いられた四半期末(期末)の普通株式の数(株)	261,984	261,732

2 1株当たり四半期純利益金額等

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額 955.27円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 2,589.02円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 2,560.12円

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額		
四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	△249,962	677,941
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△)(千円)	△249,962	677,941
期中平均株式数(株)	261,666	261,853
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	2,956
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。